

第41回 全日本少年サッカー大会 北海道大会 戦評

2017/10/7~10/9

小樽市望洋サッカー・ラグビー場

【準決勝・Aコート】 エスピーダ旭川 VS SSS 札幌サッカースクール

エスピーダ旭川	$\left(\begin{array}{cc} 0 & - & 0 \\ 3 & - & 1 \\ \hline 3 & - & 1 \end{array} \right)$	SSS 札幌サッカースクール
---------	---	----------------

2017年10月8日(日)13:00、大会2日目。秋晴れの天気、そして爽やかな風を心地よく感じる中、準決勝が行われた。

Aコートの試合は、道北ブロック旭川地区代表のエスピーダ旭川と、札幌地区代表のSSS 札幌サッカースクールの対戦。1・2回戦と得点を積み重ねる内容で勝ち進んできた両チームである。

【 前 半 】

KICKOFFは、エスピーダ。エスピーダは2-4-1、SSSは3-3-1のシステム。

ファーストシュートはSSS③の右足。⑩が奪ったボールを③が素早い判断からシュートするもゴールの上に外れる。開始1分。SSSが右サイドの⑨のスピードにのったドリブルから相手陣内に侵入しセンターリング~⑩のヘディングシュートは惜しくもゴール左にそれる。

対するエスピーダも激しいプレッシャーから守備~攻撃への素早い切り替えで相手ゴールを目指す。

エスピーダベンチからは「自分たちからアクションを」、SSSベンチからは「シンプルにボールを動かそう」「球際を厳しく」という声かけられる。

前半は両者ともに主導権を握ろうと中盤での激しいボールの奪い合いが続き、一進一退の展開であった。

予測から意図をもってボールを奪いに行き、相手を自由にプレーさせない。高い集中力でお互いに一步も譲らず、スコアレスドローで前半が終了。



【 ハーフタイム 】

エスピーダベンチは、「気持ちが入っていてとてもいいゲームだ。これまでの試合のように得点は入っていないけど、後半を最高の20分にするためにゴールを奪い、守り、ボールを奪おう。」「みんなは変化をさせることができる。そういう練習をしてきたよ。」と激励の言葉をかける。

SSSは、まず選手同士で前半を振り返って、自主的にミーティング。コーチからは「相手の2バックの裏、サイドのスペースを積極的に狙っていこう。そして球際をねばり強いこう。自分たちのいいところを出していこう。」と確認し、選手を送り出す。

【 後 半 】

後半1分。後半開始直後にゲームが動く。SSS⑧が左サイドでボールを保持すると、一気にスピードにのり、左足を振り抜いてゴールネットを揺らす。SSSに待望の先制点が入る。ハーフタイムで確認したサイドのスペースへのしかけが、得点につながる。

後半5分。先制されたエスピーダであったが、中盤の③からの正確なスルーパスが絶妙なタイミングで⑩につながる。その⑩がペナルティーエリア内で倒されPKの判定に。キッカーは⑩。力強く振りぬいた右足のシュートがゴール左に決まりエスピーダが同点に追いつく。

その後はエスピーダの⑩、⑪がボールにかかわる回数を増や主導権を握ろうとするも、SSSは⑧②⑥のDFラインが高い集中力を保ち、エスピーダに決定機を与えない。エスピーダは目まぐるしく選手を交代させながらポジションチェンジを繰り返して変化を狙う。

後半 13 分。SSS に決定機が訪れる。右サイドでボールを保持した⑨からのスルーパスが相手の背後を狙った⑩に通る GK と 1 対 1 になるも決めることができない。

後半 14 分。エスピーダ③が右サイドを深くえぐるドリブルをしかけ、SSS のスライディングをかわしてゴールに迫る。SSS 選手がそのカバーに出たところをゴール正面でフリーになった⑩にグラウンダーのボールがつながり、⑩が待望の 2 点目を決める。

何としても追いつきたい SSS は、⑨を中心に献身的に動いて同点を狙うも、エスピーダ守備は激しくチャレンジ&カバーを繰り返して決定機をつくらせない。



そして残り 1 分。エスピーダ⑩が右サイドを突破しセンタリング。ゴール正面で受けた⑩が落ち着いたターンで守備をはがし、強烈なシュートを決める。終了間際にエスピーダに 3 点目が入り試合終了。エスピーダが翌日の決勝に進出した。

エスピーダは⑩、⑪を中心に全員がかかわりながら攻撃を組み立て、激しい守備と素早い守→攻の切り替えでプレーし、SSS は粘り強い守備と、落ち着いてボールを動かしながら相手の隙を伺うプレーが随所に見られた。お互いに高い集中力を保ちつつ、強い気持ちをプレーで表現する拮抗した好ゲームだった。

(文責：小樽地区サッカー協会 山下真慶 藤島大平)

【準決勝・Bコート】 プログレッシブ十勝 FC U-12 VS 北海道コンサドーレ札幌 U-12 EAST

プログレッシブ十勝 FC U-12	(<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">0</td></tr> <tr><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">2</td></tr> <tr style="border-top: 1px solid black;"><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">2</td></tr> </table>	0	-	0	0	-	2	0	-	2)	北海道コンサドーレ札幌 U-12 EAST
0	-	0											
0	-	2											
0	-	2											

10月8日(日) 14:00キックオフ 天候:曇り

準決勝Bコートは、1, 2回戦ともに無失点で試合を勝ち上がってきたプログレッシブ十勝 FC U-12 と、確実に得点を積み重ね、勝利を手にした北海道コンサドーレ札幌 U-12EAST との試合となった。

【前半】

プログレッシブ十勝 FC U-12 のキックオフで試合開始。

1 分、コンサドーレ札幌 U-12EAST の⑩からのパスを受けた②がファーストシュートを放つも、ボールはゴールの外へ外れる。コンサドーレはピッチを広く使い、ワイドにボールを動かしながら攻撃を組み立て、立て続けにシュートチャンスを作る。



一方のプログレッシブ十勝は、粘り強い守備からボールを奪い、コンサドーレ札幌の 2 バックのサイドを使って攻撃を組み立てる。プログレッシブ十勝⑩からのパスを⑧がサイドで受けて、ゴール前までボールを運び、シュートまで結びつける場面がいくつかあった。

14 分から、立て続けにコンサドーレ札幌のコーナーキックの場面があった。15 分のコーナーキックの場面では、コンサドーレ札幌⑤のキックを受けた④がシュートを放つも、プログレッシブ十勝 GK⑳のファインセーブにゴールを阻まれる。前半は 0-0 のスコアレスドローで終了する。

【後半】

プログレッシブ十勝のハーフタイム。相手 2 バックの両サイドのスペースを使い、攻撃を組み立てるとともに、相手の状況に合わせてボールをつないでゴールを目指すようにとの指示があった。この狙いが試合の中で見事に表現される場面があった。

29分、プログレッソ十勝は、⑫→⑪→⑩→⑧→⑨とパスをつなぎ、ペナルティエリア内に侵入。ドリブル突破を図った⑨がファウルを受け、PKを獲得。プログレッソ十勝⑨がPKを蹴るも、コンサドーレ札幌GK⑳のファインセーブに止められ、得点をする事はできない。すると、ハーフタイムで相手3バックのサイドで攻撃を仕掛け、バイタルエリアにできたスペースに侵入してゴールを目指すように指示を受けていたコンサドーレ札幌が反撃を見せる。

36分、右サイドにいた㉒から中央の②、左サイドの⑧とパスをつなぎ、⑧がドリブルからセンタリング。ボールを受けた④がペナルティエリア内でシュート。1度は相手GKに止められるも、こぼれ球を自分で押し込みゴールを決める。

このままでは終われないプログレッソ十勝は、39分にピッチ中央付近で直接フリーキックを獲得。GK以外を前線に上げ、ゴールへ迫るもコンサドーレ札幌の守備に防がれる。

そして、アディショナルタイムに入った40分、コンサドーレ札幌は㉓からのコーナーキックをゴール前にいた④がシュート。1度は相手GKに止められるも、こぼれ球を自分で押し込み、2点目を挙げる。このまま、試合終了となり、2-0で北海道コンサドーレ札幌 U-12 EASTが勝利し、決勝戦へと駒を進めた。



(文責：小樽地区サッカー協会 山崎浩二 藤島大平)

【決勝・Bコート】 エスピーダ旭川 VS 北海道コンサドーレ札幌 U-12 EAST

エスピーダ旭川	(<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">2</td></tr> <tr><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">1</td></tr> <tr style="border-top: 1px solid black;"><td style="padding: 5px 10px;">0</td><td style="padding: 5px 10px;">-</td><td style="padding: 5px 10px;">3</td></tr> </table>	0	-	2	0	-	1	0	-	3)	北海道コンサドーレ札幌 U-12 EAST
0	-	2											
0	-	1											
0	-	3											

10月9日(月) 11:00キックオフ 天候:晴れ

木々が色づき、秋晴れの太陽が紅葉を照らす。サッカー日和の最高のコンディションの中、全日本少年サッカー大会北海道予選決勝が行われた。

決勝戦は旭川地区代表「エスピーダ旭川」VS 札幌地区代表「北海道コンサドーレ札幌 U12 EAST」両チームとも高い技術で強豪チームを破り勝ち上がってきた、北海道の代表を決めるにふさわしい2チームによる決勝戦となった。

【前半】

北海道コンサドーレ札幌 U12EAST (以下コンサドーレ) のキックオフで試合開始。

前半開始早々、コンサドーレ⑩の左サイドの突破からコンサドーレがコーナーキックを得るがゴールならず。

前半5分、ゲームが動く。コンサドーレDF⑥からトップの④に当て、④がターン。そのまま強烈なシュートを打つ。キーパーにはじかれるが、そのボールをコンサドーレ⑩が詰め、落ち着いてゴールに入れる。先取点はコンサドーレ札幌。

前半7分、立て続けにコンサドーレが攻撃を繰り返す。左サイド⑧からアーリークロスを入れる。それを④がヘディングでゴールに押し込むがオフサイドとなる。

前半9分、エスピーダ⑨が中央でワンタッチプレイ。それを③→⑩とつなぎシュートまで持っていき、シュートが弱く、決めきれない。

その直後、コンサドーレ④が中央で持ち、同じく中央にいた⑩にパス、それを④へヘッドでリターン。④がシュートを打つが、エスピーダキーパーがはじく、それをコンサドーレ㉒が詰めて、ゴールに押し込む。コンサドーレに追加点が入る。

その後、コンサドーレの猛攻が続き、コンサドーレ⑩がさらにゴールネットを揺らす、オフサイドでノーゴール。

エスピーダも中央・サイドと攻撃を試みるが、コンサドーレの激しいDFをなかなか崩せない。

エスピーダは攻撃のリズムを変えるためにワントップの⑩を代え、⑥を出す。

前半19分エスピーダが中央でフリーキックのチャンス。ゴールまで30m。エスピーダ⑩が直接ねらうが、ボールはゴールの上へ。

前半終了のホイッスルが鳴り、2-0でコンサドーレが2点差をつけ、試合を折り返すこととなった。



【 ハーフタイム 】

エスピーダは、相手トップにボールを入れられるのは前線から守備が行けていないから、ということでその修正。そして、出足で負けないう声をかけた。まだ力を出し切れていないから、全力を出し切ろうということ、また、サッカーを楽しもうということなどが伝えられた。選手間でも声を掛け合うなど、選手の自主性が感じられ、選手を大事にする雰囲気が感じられたハーフタイムであった。

コンサドーレは、はじめは選手のみでミーティングが行われ、「もう少しシュートを決めないと勝ちきれない。」ということなどを話し合い、前半の振り返りを行っていた。コーチからもシュートを確実に決めろということと、2バックのサイドのスペースを使ってそこから崩していこうということが確認、また、前線でタッチ数を少なくして、速い展開をねらうような具体的な指示が出されていた。

【 後半 】

後半はエスピーダのキックオフでスタート。

エスピーダは前半とはポジションを大きく変え、後半での逆転をねらう。

後半1分、コンサドーレ④がボールを中央で奪いそのままシュート。後半のファーストシュートはコンサドーレ。しかし、GKのセーブでゴールならず。

後半3分、コンサドーレの右コーナーキック。⑩からのボールを④が合わせるタイミングの良いヘディングだったが、ゴールの上へ外れる。



この大会、エスピーダは選手を何度も入れ替え、試合のリズムを変えてきた。この決勝も同様で、めまぐるしく交代が行われた。

選手もリズムを取り戻し、激しくボールを奪いに行く。

両チームとも中盤で激しくボールの奪い合いが行われる。

後半6分、コンサドーレの左コーナーキック。キッカーは⑩。中央にあげたボールに④が合わせ強烈なヘディングシュートがゴールに突き刺さる。コンサドーレに3点目が入る。

後半7分、中央でボールをキープしたエスピーダ⑩が右サイド⑩に入れ、⑩が中央に落とす。そのボールを⑩がシュートに持ち込むが、ゴールの枠を外れ、得点ならず。

後半10分、コンサドーレが猛攻を見せる。何度も相手を崩しシュートまでもっていくが、エスピーダの体をはった守備でゴールを許さない。

その直後、エスピーダが中央縦に大きく蹴り出したボールを⑦が受け、そのままゴールネットを揺らす、惜しくもオフサイド。

後半12分、エスピーダの⑦が中央で強烈なシュートを打つが、GKにはじかれ、なかなかゴールに結びつかない。

両チームとも疲れが出る時間帯であるが、足を動かし、声を出し、ボールに積極的に関わろうとする。めまぐるしく攻防が入れ替わる時間帯が続く。

後半19分、コンサドーレ④が右サイドをドリブルで突破。そこから中央にセンタリング。③6がシュートを打つがゴールは枠を外れる。

試合終盤、選手からも「ラスト、集中しよう！」という鼓舞する声がかかる。

アディショナルタイムは1分

後半20分、コンサドーレが中央のゴールまで20mのところまでフリーキックのチャンスを得る。キッカーは②。コースをねらったシュートは惜しくもゴール左に外れる。

お互いに最後の力を振り絞ってゴールを目指す。その時、会場に試合終了のホイッスルが鳴り響いた。

3日間の長い戦いは、3-0で北海道コンサドーレ札幌U-12EASTが優勝し、全国への切符を手に入れ、幕を閉じた。



両チームとも、優先順位を意識し、トップにボールを集め、そこを起点に速い展開でゴールに迫った。当然中央の守備は厳しくなるが、そこへ通すパスの精度、視野、パススピードなど高いテクニックが際立っていた。

運動量も豊富で、前線・中盤からのアプローチが激しく行われる近代サッカーにおいて、視野を広く持ち、速い判断でプレイすること、また、それを可能にする基礎技術がいかに大切かということを実感できた決勝戦であった。

本大会を通じて、守備では、積極的にボールを奪おうとプレーする選手が増えてきたように感じられた。上位に進出したチームにはそうした意識の高い選手が数多くいるように見えた。攻撃面では、トランジションが早く、優先順位を意識したプレーが随所に見られた。相手やボール状況に応じた攻撃に対する指導者のコーチングも数多く聞こえてきた。GKやバックラインからの配給、スローインでボールを失う場面が多いことが課題に挙げられるが、今後も北海道全体の課題として共有し、日常の中で改善していきたい。

優勝した、北海道コンサドーレ札幌U-12EASTの全国大会での活躍を期待している。

(文責：小樽地区サッカー協会 藪田晃一 出来田智 藤島大平 山下真慶)



優勝 北海道コンサドーレ札幌U-12EAST



準優勝 エスピーダ旭川



第3位 プロGRESSO十勝FC U-12



第3位 SSS札幌サッカースクール